



しんじょうやまだより

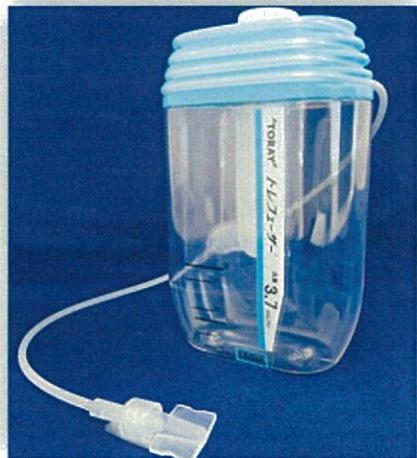


平成 29 年 10 月 26 日発行

化学療法委員会です

大腸がんの化学療法にインフューザーポンプが採用されます。FOLFOX・FOLFIRI 関連の治療に導入し、5FU の 46 時間持続点滴による患者さんの負担を減らすことを目的としています。また、輸液ポンプ使用に比べると投与管理する看護師の負担も軽減されると考えています。まずは 5 病棟で入院化学療法中の患者さんに使用していただき患者さんからの感想を確認していきます。管理する看護師の皆様の声も参考にさせていただきますのでぜひご意見ご感想をお寄せください。

化学療法委員会委員長：渡邊伸和 文責：奥寺志麻



【医局から】院長 森田隆幸

4 月から、森田、蝦名が加わり、青森厚生病院の医師の顔ぶれも若干変わりました。若い医師が着任すると所属する診療科、時には病院の雰囲気も変わることが多いのですが、今回ばかりは、そのようにもいかず、二人の老害で皆様にご迷惑をおかけしていること多大です。内科、外科、婦人科、整形外科、麻酔科、10 名の医師のうち 9 名が医局会のメンバーです。通常、この規模の病院ですと総合医局に各科の医師が机を並べ患者さんの相談や雑談に花を咲かせたりするのですが、昔からの習慣でしょうか、数日間、顔を合わせることがないのは残念なことです。しかし、各診療科の医師の方々の病院と思う気持ちは皆変わりなく、月に 1 回は医局会（医局とは医師の控え室かつ日本にだけ存在する私的団体のこと）で相談事を行っています。これまででは夕方に開催されていたようですが、出来るだけ多くの医師の出席が得られるようにと、今年度からは第 3 金曜日、朝、8 時から開催されています。『まとめ役』ともいえる医局長には小松先生が就任し、医局会の会議進行を担当しています。当初は、様々な事が議題として挙がっていましたが、院内の主要な会議や委員会の報告は管理会議で行われるようになりましたので、医局会で話し合われる内容もスリムになってきました。職員の誰もが楽しく働きやすい病院になるように・・・、これからは、そんな議題が挙がってくると思います。

今年もあと 2 ヶ月、いよいよ後半戦に突入しますが、いま、病院が抱えている諸問題を解決出来るように力を合わせてやってきますので宜しくお願ひします。